

## 【第 44 回審議会概要（主な意見等）】

審議事項（1）米原市人権意識調査について

- 事務局：令和 4 年度に実施する米原市人権意識調査の実施について、目的や調査対象、調査項目および調査表について事務局から説明し審議を行った。【詳細説明略】
- 会長：事務局から今回の調査の説明があった。これに関して質問、意見があれば出してほしい。
- 委員：インターネットによる回答は、回答率をあげるために取り入れることは良いと思う。
- 会長：追加サンプルは、回答率の低い若い世代について正確な総計データを得るために設定したい。また、抽出方法について、米原市民の年代および男女の比率通りに抽出（層化抽出）を行ってほしい。

回答は郵送回答に加えインターネット回答を行うこととした。また、対象者について、年代と男女の比率を固定して無作為に抽出する層化抽出を行うこととなった。

（続いて、調査項目について説明し、意見を求めた。）

- 委員：前回からの比較のため、難しいと思うが 5 段階で「どちらともいえない」という選択肢が中央にあると、思考をせず（めんどくさがって）中央を選択してしまい、回答が偏るのではないかと。
- 会長：5 件法（5 段階の選択肢から選択して回答する方法）にもメリットデメリットがあり、今回の調査票の中でも、4 件法と分けている。「どちらともいえない」というのは、設定された条件が回答者自身では判断できない状況で選択する場合もあり、ある程度の偏りは想定される。それらも含めて啓発等の課題と捉えていければと考えている。
- 委員：最後の性別記入欄を男女以外に「いずれでもない」に違和感がある。「答えたくない」としてはどうか。自身の性別・年代を聞く部分を調査票トップに置いてはどうか。
- また、設問で性別記入欄の是非について問うているのに、本調査票において性別記入欄を設けることに引っかかる人がいるのではないかと。
- 会長：性別記入欄の男女以外の表現について前回調査では「その他」としたが、最近は「いずれでもない」という表現が多く、そちらを採用したい。「答えたくない」とすると、それを選択してしまう人が増える事が想定される。フェイスシート（性別、年代記入欄）は元々調査票のトップにあったものが、回収率が下がるため一番後ろに置くことが多い。

また、性別記入欄は統計情報として捉えるために、無意味に聞くのではなく意味があって聞いているので、別件として捉えている。これについては（意味があって聞いているという）意図が伝わるように強調するなど説明文を見やすくして対応したい。

委員：障がい者の人権に関する設問がないため、設定してはどうか。

会長：前は出生前診断についての設問があったが、回答の偏りが多かったため削除した。障がい者の人権について設問を事務局と検討する。

委員：県の調査と合わせて、滋賀県の人権関係の条例の認知度を聞いてはどうか。ハンセン病についての注釈は国の隔離政策も差別に影響があったため、記述を改めて欲しい。

事務局：提案いただいたとおり取り入れたい。また、ハンセン病の記述については改めることとする。

委員：人権侵害の内容について、顧客等からのパワハラも選択肢に入れてはどうか。

会長：本設問は、国の調査と比較を考えている。設問項目を増やすなどの対応は可能であるので確認して検討する。

調査票については、障がい者の人権に関する設問や滋賀県の人権関係の条例の認知度を聞く設問を加えるほか、文言やレイアウト、注釈の訂正等を行って調査を実施することとなった。

事務局：謝辞を述べ、審議会を終了した。